



TITLE:

宇宙物理学教室だより

AUTHOR(S):

CITATION:

宇宙物理学教室だより. 天界 1928, 8(83): 102-102

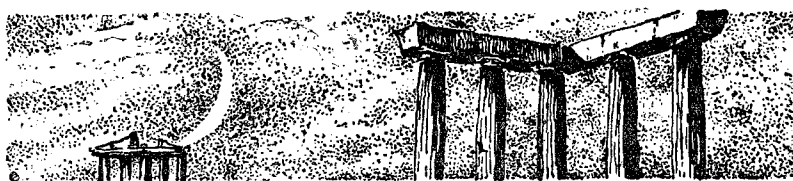
ISSUE DATE:

1928-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161228>

RIGHT:



宇宙物理學教室だより

昭和二年十二月二十一日、學用の爲め
新城教授上京。

十二月二十五日、新城教授歸洛。

十二月二十六日、京大理學部に於ける
ニウトン祭、午前十時、舊本部樓上に於
て開會、數理物理學の玉城博士のニウト
ン傳、數學の西内博士の第二回歐羅巴旅
行土産談、新城教授の辰年に關する支那
學一流の議論から宇宙論、更にニウトン
に及んだ大氣焔に理學者百五十名を焔に
まかれた。正午中食後午後は法學部講堂
に於て、ニウトンに關する幻燈と映畫、
『宇宙の驚異』の公開。

夜は理學部數物同窓會の懇談會を學内
樂友會館に於て催す。

◎竹田講師の歸省を始めとし、中村助
手其他學生諸君の歸省の爲め天文臺は殆
んど空となり急に寂しくなつた。

京都にも嚴しい雪の冬が訪れた。洛北
洛東の山々が銀色に光つて、あはれ昭和
二年1927年も Diesseits von O の中に葬ら
れて行く。

十二月三十日、米國 Williams College
の天文教授 Willis I. Milham 博士夫妻來
訪、新城教授山本教授夫妻の案内で天文
臺や叡山などを見物す。

昭和三年一月一日、快晴、めづらしい
光に満ちた新春第一日であつた。

一月六日、東京から平山信博士及び早
乙女博士、水澤から川崎技師來訪、新城
山本、上田諸博士の案内で花山山天文臺
敷地から大津叡山を清遊された。

一月九日、竹田講師歸校

沈義枋理學士 大正十四年東大理學部
天文科卒業の同氏は大正十五年以來故國
上海に歸つてゐられたが、今度専心東方
文化事業の仕事にあたる爲め新城教
授の許で重力の研究の目的で今年中我教
室に滞在される事になつた。

一月十日 新城教授伊勢宇治山田市に
出張。

一月十一日 宇宙物理學教室開講。

一月十三日 新城教授歸校。

一月十三日夕 理學部地球物理教室助
教授長谷川萬吉理學士の獨逸留學（三月
頃）を送る爲めに理學部主催の送別會が
本部樓上で開催された。天文地球物理關
係からは新城、志田、松山、山本、上田、
荒木、熊谷、竹田、長谷川久一、滑川、
服部、速水諸氏の出席で盛大な一夜を送
つた。

一月二十日 宇宙物理學教室の物理學
輪講會の本學期の第一回講讀會（Som-
merfeld: Atombau und Spektrallinien）；同
人、長谷川萬吉、荒木俊馬、竹田新一郎
速水頌一郎。